

豊かな自然と伝統文化の郷 よねかわ

発行元: 米川地域振興会

発行日: 平成25年1月1日

第 21 号

米川新聞 1



米川の水かぶり

国指定重要無形民俗文化財

この行事は毎年2月の初午の日に、五日町の男子によって行われている奇祭である。昔は年男といわれる25歳、42歳の厄年の男子によって火伏せと厄払いを合わせた祭であった。最近はこの民俗伝統行事を継承するため、小学生の高学年も参加するようになった。

宿の菅原家で身に付けるしめ縄を各自で作し、裸に三本巻き付け、頭には藁(わら)の冠をかぶり、顔にはススを塗った男たちは、一斉に宿を出て※大慈寺(だいじし)の火伏せの神である秋葉山大権現に参拝し、これで初めて神の使いに化身する。参拝後山門をくぐり出て、往古大慈寺のあった諏訪森(すわもり)の麓で祈願。市街地に出てから、各戸で準備している桶の水を家々に掛けながら、火伏せを祈願して歩く。市街地を抜け八幡神社、若草神社を参拝し、二股川を越えて中嶋地区や四十田地区も火伏せを祈願して歩く。沿道の観光客は、水かぶりの男たちが身に付けた藁を競って抜き、家の屋根に上げて1年の火伏せを祈願する。男たちが家々を巡る前には、オカメとヒョットコ(火男)の姿をした者二人が家々を回りご祝儀を頂く。

※大慈寺

もとは諏訪森大慈寺と称した奥州藤原氏創建になる天台宗のお寺であった。藤原氏の没落後は退転を繰り返したが、永享元年(1429)黒石の正法寺四世中山良用和尚開基曹洞宗のお寺となり、現在に至っている。創建以来数度の火災に遭っている。平成23年、檀家の寄付により本堂が新築された。境内には市指定文化財の山門・秋葉大権現・西行の歌碑・経王塔・遠藤曰人(あつじん)の句碑等がある。

おもてなしの心 あふれる笑顔
Hospitality 米川公民館 and Smile



発行元
発行責任者
郵便番号
住所
Tel
Fax
E-mail

米川地域振興会(米川公民館内)
及川 浩
987-0901
登米市東和町米川字四十田25番地1
0220-53-4155
0220-23-9030
yonekawa.kou@chime.ocn.ne.jp



津軽三味線の 仲良し柴田三兄妹

の演が地し寺川昌校 ま日芸た「に
ト奏、域、幹つ氏P この。小鑑子復
ーそ津の児男くー、A 講。小賞教育興
クし軽方童氏し、米 演。小会支
をて三々・ー会 川 会、小一講
堪仲味総保の 川 会、小一講
能良線勢護共 川 会、小一講
。しの1者催長 川 会、小一講
三歴8そで 川 会、小一講
兄史0し開小 川 会、小一講
妹や名て催野米信学 川 会、小一講

津軽三味線 柴田三兄妹

復興支援

米川小学校 親子教育講演会

て一 で思手ド文兄り年
い丸日しい3ン化妹まは子
きと本よ出名五祭、し、ど
まなのうにと輪前10た大も
しり宝。残のフ夜月。きた
よ暖ー子る出エ祭20今なち
うかでど1会ンで日回に出
。くすも年いシは開の会と
見。ただなン、催柴いっ
守地ちっどグロし田がて
っ域はた、選ンた三あ今



津軽三味線を真剣に聴く子どもたち

さん津見
の々聞
質で、き
問ト、す
がーる
でク、も
ま味、た
しは、ち
たは、は
た興、初
。<味て

▽▽ 大会
準優勝 男子小学
優勝 小学
及工藤中学
川悠琉学年
悠斗生部
君部



真剣勝負の少年剣士たち

るも少響
の懸、でし
が念一、か
悩材方少
み料指年
のと導剣
種な者士
。りのが
つ高年
つ齡々
あ化減影

れ日、和、ポ、道、に、そ、鍛
の、町、少、選、し、錬
、米、剣、東、手、第、の
。公、道、和、権、30、健
民、会、部、大、回、全、成
館、が、主、会、東、育、果
で、主、全、和、成、と
開、12、管、主、少、主、術
催、月、催、年、目、向
さ、9、東、ス、剣、上

第30回東和町少年 剣道選手権大会

目指すは全日本選手権

に加を談ス しら供す名の
耳者お員セ講 ていうるこ参強今年
をは招、ン師い「被こと。に回2
傾講き小タにま害と。は目
け師し野、。ゼ、口意まり4と
てのて寺の、。口意まり4と
いお行恭石県、。口意まり4と
ま話わ子垣民、。口意まり4と
しにれ相直サ、。口意まり4と
た真、談美、。口意まり4と
。剣参員相比

勉き会月長米込
強込場5 川多
会まに日佐長れ
をれお・藤生な
開ない6 尚大い
催いて日衛学よ
。対、の氏、う
応勧両一運に
方誘日、は委
法のに、は委
の巻412員、

悪徳商法に遭わないうために

▽▽ 準優勝 男子小学
優勝 小学
及工藤中学
川悠琉学年
悠斗生部
君部

困
県民
22
57
00
1



真剣に聴く参加者(国際交流センター)

ら点あド学全に
学まか習な合今
習でりら。取回
し、気のコ扱は、
まDに出ンい、火
したVし火セ一、災
。をいどトつ製多
見細、やい品発
なが普コての時
がな段、も安季



真剣に聴く参加者(米川公民館)

よねかわ情報コーナー（催し物）

米川新春懇談会

開催日時:平成25年1月20日(日曜日) 10:00~11:30

場 所:米川公民館

対 象 者:米川地域内の方及び団体

内 容:新年の祝賀と舞いそして初笑い(落語家2名来町)

男の料理教室

開催日時:平成25年1月25日(金曜日) 18:30～

場 所:米川公民館

対 象 者:米川地域内の方

会費:1,500円



すぐに技術をマスターした参加者

ユニカールで
益々元気に！

米山公民館 俳句愛好会

十二月の五人一句
落葉、霜、布団

選者 Ⅱ 米川公民館俳句愛好会講師 藤野 尚之

今日の日の始まる落葉掃きにけり
米川 及川裕子

落葉舞
ラ
ト
ツ
の円通院
米谷
村上君枝

月光の霜となりけり堀も木も
米川 小野寺和彦

身二つになりし娘　こゝに掛く布団かな米川　千葉富子

霜を踏　昨日一寸今日二寸　米川　千葉勝保

お日さまの香り
めぐる布団かな
米川 及川豊子

朱の橋の池の汀の落葉船
米川 小野寺好道

とときの窓の日射しに布団干す 米川 千葉サコ

隊列の雁声響く今朝の霜
錦織 及川守男

嫁入りの布団縫　　たる母は亡し
米谷　　亀卦川たき子

陽の昇る程に消え　く屋根の霜　米谷　渡部康郎

選者の一句

布田干す沖に荒島椿島 藤野 尚之

謹賀新年

旧年中は地域の皆様にご支援ご協力を賜り感謝申し上げます
本年もよろしく
お願い申し上げます

平成二十五年元旦

米川地域振興会 会長 及川 浩



米川の水かぶり 人形設置

高さ4メートルの
米川の水かぶり保存会

「上り置。3のが菅水立形水
今前を。4水中原かち民か冬
年かP毎6か心淳ぶ、俗恒
はらR年号ぶと一り12文り例
2設しこ線りな氏保月化へ祭
月置よの沿人、存23財国指
9しう時い形、の会日、開
日てと期にを、高メへ、定
土い20に2、さん会米催重米
躍る。年お体国4バ長川に要川
日。以祭設道む」の先無の

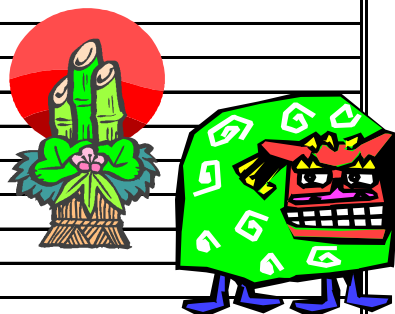


保存会のメンバーと人形

の開催であり、多くの
来場をお待ちしています
と菅原淳一会長。

1月の予定

1	火	
2	水	
3	木	
4	金	(仕事始め)
5	土	
6	日	
7	月	古文書学習会
8	火	
9	水	泉趣会
10	木	
11	金	つるし飾り愛好会、絵手紙教室 あばせ功 教室
12	土	福扇会、米川泳 少剣道
13	日	
14	月	江ア体力づくり教室、米川泳 少剣道
15	火	レダ ソ教室
16	水	泉趣会
17	木	
18	金	絵手紙教室
19	土	米川泳 少剣道
20	日	米川新春懇談会



21	月	古文書学習会、福扇会 江ア体力づくり教室、米川泳 少剣道
22	火	レダ ソ教室
23	水	泉趣会
24	木	
25	金	あばせ功 教室、男の料理教室 (夜)
26	土	米川泳 少剣道
27	日	
28	月	福扇会、江ア体力づくり教室 米川泳 少剣道
29	火	レダ ソ教室
30	水	泉趣会、あばせ功 教室
31	木	

2月上旬の予定

1	金	
2	土	
3	日	
4	月	古文書学習会、レダ ソ教室
5	火	
6	水	泉趣会
7	木	

※公民館事業又は利用許可申請書提出済の団体のみ記載

米川の世帯数と人口

平成24年11月末現在

行政区	世帯数	男	女	計(人)
1区	179	167	190	357
2区	127	169	164	333
3区	117	178	186	364
4区	100	156	131	287
5区	79	123	128	251
6区	90	135	128	263
7区	73	111	115	226
8区	114	129	152	281
9区	72	79	114	193
10区	42	70	67	137
計	993	1,317	1,375	2,692

編集後記

あけましておめでとうございます

皆様には、健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。旧年中は地域の皆様方に多大なご支援ご協力を賜りまして感謝申し上げます。

昨年は、震災の影響も加わり、地域を取り巻く環境が悪化する中、地域のホットな話題や情報を記事に、乱文ながらも読者の視線で精一杯新聞づくりを心掛けてきました。今年も皆様に愛される新聞づくりを目指しますのでよろしくお願いいたします。

沼倉祐之

当寺の文化財としては前述のように永享元年（一四二九年）曹洞宗として現在の地に開創された当時の建物と推定される「山門」が昭和四十七年十月十七日東和町の文化財として指定を受けている。又当寺の境内に鎮座する秋葉大権現を本尊とする「米川の水かぶり」の火伏の行事がある。この行事は起源は記録がないので定かでないが十二世紀後半藤原秀衡が天台宗諏訪森大慈寺を創建した時より毎年二月の初午の日に雲水の行として始まったものと伝えられている。雲水は行場（現在は宿と言ひ菅原栄氏宅）で水ごおりを取り身を清め裸になった全身に藁装束をまとい顔にかまどのススを塗り秋葉大権現に参詣し神の使いと化し町に繰り出し町の火防を祈願した。町では家々に用意された水を屋根にかけながら走り抜ける。人々は男達から藁を抜き取り屋根に上げ火伏せのお守りとする。いつごろからかわからないが当寺のお膝元である五日町の若い人も厄払いを兼ねこれに加わり現在まで一年も休むことなく受け継がれている。藁装束の一団とは別に鐘を叩く墨染めの衣の火男面と天秤に手桶を担ぐ女装のおかめの面の二人組が家々を廻り御祝儀を戴く、この御祝儀で「かさこし」と言われる参加者の慰労会が行われる。この行事は発祥以来一年もかかさず行われて来たことが認められ左記の通り文化財の指定を受けている。

昭和四十六年十月八日東和町無形民俗文化財に指定

平成三年八月三十日宮城県無形民俗文化財に指定

平成十二年十二月二十七日国の無形民俗文化財の指定

この行事は五日町以外の人が入ると火災が起きるといわれ他の人を加えることはない。